

カリキュラム・ポリシー

【教育課程編成方針】

福祉学科が目指す人材像を育成するために、次の3つの分野の教育を編成し実施します。

(1) 介護福祉士養成に必要な専門教育

介護実践の基盤となる教養や倫理的態度を学ぶ「人間と社会の理解に関する領域」、介護実践に関する専門的技術・知識を学ぶ「介護領域」、多職種協働や介護実践の根拠を学ぶ「こころとからだのしくみに関する領域」の3領域と「医療的ケア」の学びで育成します。

(2) 福祉・介護に関連する幅広い教育

福祉の理念を幅広く学ぶとともに、福祉・介護に関連する分野で活躍できるレクリエーションインストラクターや介護予防運動スペシャリスト、医療事務・介護事務等、多様な資格取得をめざします。

(3) 人間性豊かな人材を育成する教育

人間らしい生き方や幸せとは何かについて幅広い観点から学び、学生主体のボランティア活動を通して、健康で豊かな人間性を育くみます。

【教育課程実施方針(教育内容・方法)と学修成果の評価方法】

2年間にわたり、上記の教育を体系的・系統的に実施します。1年次は一般教養と介護の基礎を、2年次は専門教育と資格取得を重点的におこないます。

【学修成果の評価】

シラバスで示す評価方法により、学修成果別評価基準を用いておこないます。学期毎及び累計のGPAを算出し、総合成績評価を行います。

【教育課程実施方針(学修方法)】と【学修成果の評価方法】

【教育内容】	教養科目群による幅広い教養や一般常識、専門科目群による介護福祉ならびに相談援助や福祉ビジネスにおける知識の獲得を図る。
【教育方法・学修方法】	講義科目と演習・実習科目ともに視覚教材の有効活用やアクティブラーニングの導入により、学生の興味関心を高めながら知識と理解の向上につなげる。
【学修成果の評価方法】	筆記試験やレポートなどで評価
【教育内容】	講義に連動した演習や実習の科目で、学修段階に応じた技能の修得を目指す。また「教養演習」において表現技法の修得や伝達能力・文書作成力などの向上を目指す。
【教育方法・学修方法】	少人数での演習や実習形式の授業に重きを置く。情報処理や文書作成などの学修に取組むなかで、パソコン操作の習熟を目指す。
【学修成果の評価方法】	演習による到達度の確認や、外部指導者などによる評価
【教育内容】	「総合的研究」を必修科目とし、研究の手法やマナーの基本を習得する。その他の授業でも可能な限りアクティブラーニングを取り入れて、思考力・判断力・表現力を高める。
【教育方法・学修方法】	グループワーク、プレゼンテーション、その他の手法を用いて、自らの思考・判断を表現するとともに、他者の意見を参考に自分の思考を拓ける機会を持つ。
【学修成果の評価方法】	成果物の発表、意見発表、レポートや研究論文などを評価。
【教育内容】	社会の動きや福祉問題への関心を高める。また、関連領域の基礎的な学修を早くから取り入れ、主体的に学ぶ態度を養う。
【教育方法・学修方法】	課題や目標に、自分の力で計画的に取組ませる。全体の中で評価をおこない、自信につなげる。
【学修成果の評価方法】	課題の取組み状況、受講態度、実習等の受入先の評価など。
【教育内容】	介護実習やインターンシップ、授業でのグループワークなどを通じて、多様性の理解や共感する心を育む。また、ボランティア活動を通じて思いやりの心や社会貢献活動の意義を学ぶ。
【教育方法・学修方法】	課外活動の積極的展開と振り返りの実施。実習やインターンシップでの指導など。
【学修成果の評価方法】	外部からの評価も取り入れながら、自己評価の内容も加味して評価。